

観点別学習状況の評価（A～C）の事例とその評価基準

1 評価のねらい

本校は商業高校であるため、生徒の約半数が卒業後すぐに就職する。本校の生徒たちにとって、相手に分かりやすくものごとを伝える能力というのは、社会に出る前の本校在学中に身に付けておきたい力の一つである。そのため、授業の中でも、プレゼンテーションを行うなどの相手に自分の意見や考えを伝えるという場面を多く取り入れている。

そこで、本時では、指定されたモル濃度の溶液の調整方法を理解するとともに、それを分かりやすく表現する力を養う課題として、溶液の調整方法の説明書を書く課題を設定し、評価を行った。

2 評価基準 【思考・判断・表現】の評価

A 指定されたモル濃度の水酸化ナトリウム水溶液の調整方法を正しく記述し、他の生徒にも分かりやすい形で表現することができる。

B 指定されたモル濃度の水酸化ナトリウム水溶液の調整方法を正しく記述しているが、他の生徒に分かりやすく伝えるために更なる工夫が必要である。

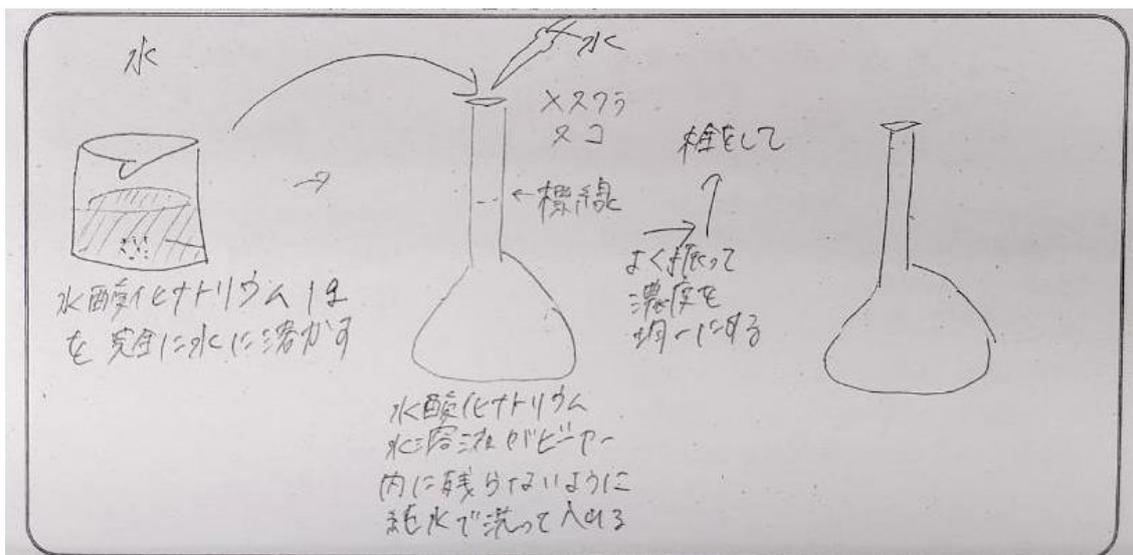
C 指定されたモル濃度の水酸化ナトリウム水溶液の調整方法を正しく記述できていない。

※Cの場合は、別途補助プリントで復習するなど、個別に支援する。

3 生徒の評価事例

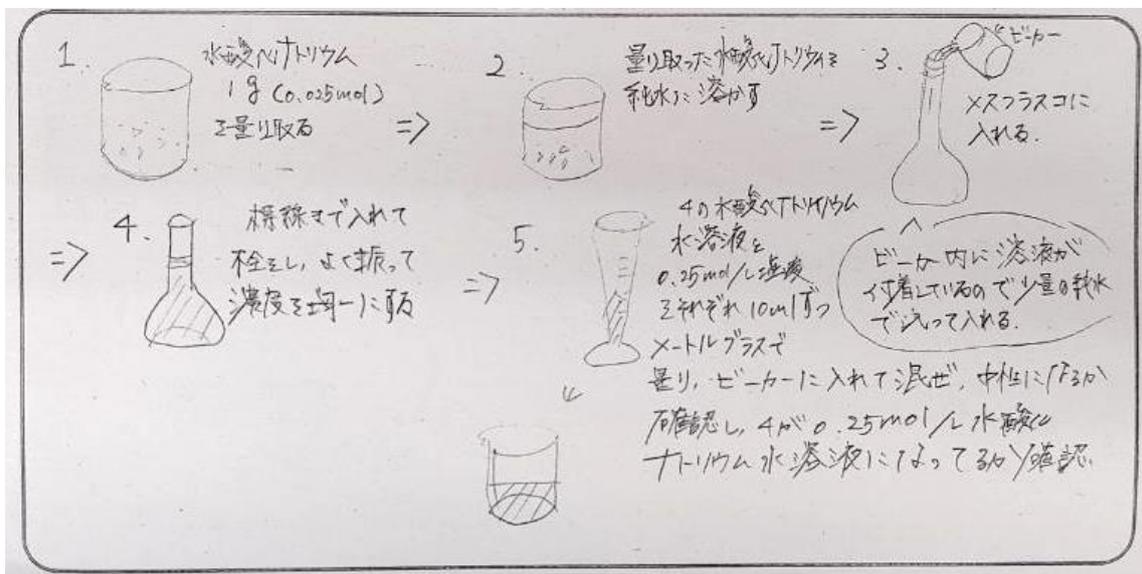
【評価Bの例】

「標線まで純水を入れる」など一部足りない部分はあるが、0.25mol/L 水酸化ナトリウム水溶液 100mL を調整するために必要な NaOH の質量を含め、調整方法をほぼ説明できている。このことから、「おおむね満足できる」状況（B）と判断できる。



【評価Aの例】

0.25mol/L 水酸化ナトリウム水溶液 100mL を調整する方法を、実験器具名や操作手順を他の生徒が再現できるように分かりやすく説明している。また、溶液の調整が正確にできているか確認するために行った、0.25mol/L 塩酸と混ぜる操作の意味も記述している。このことから、「十分満足できる」状況 (A) と判断できる。



【評価Cの例】

0.25mol/L 水酸化ナトリウム水溶液 100mL を調整するために必要な NaOH の質量は示されているが、実験器具名や何を混ぜるのかなど、他の生徒が再現するためには不十分な点が多い。このことから、「努力を要する」状況 (C) と判断した。

